

参考様式B5(自己評価等関係)

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	寺子屋アップルキッズ			
○保護者評価実施期間	2024年11月1日 ~ 2025年10月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数)	15
○従業者評価実施期間	2024年11月1日 ~ 2025年10月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年11月26日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々のニーズに応じたアセスメントと計画に基づく、専門性のある支援	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価ではアセスメント実施、個別支援計画の作成・共有、モニタリング、記録の徹底などに高い評価（4）が付いている。 ・保護者評価でも「こどもの特性に応じた専門性のある支援」「計画に沿った支援」「活動プログラムが固定化されない工夫」に「はい」が多く、支援内容への満足度が高い。 ・日々の記録や振り返りを通して、支援の検証・改善を行い、こどもの変化に合わせて計画を見直している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・標準化されたアセスメントツールの活用や、評価結果の見える化を進め、保護者にも分かりやすい形で共有する。 ・職員間のケース会議・事例検討を定期化し、より専門性の高いプログラム開発につなげる。
2	保護者との日常的な連携・丁寧な説明、安全・非常時対応の体制	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価では運営規程や支援プログラム・利用者負担の説明、苦情対応の体制、個人情報の取り扱い、安全管理・非常時のマニュアル整備・BCPなどがすべて高評価となっている。 ・保護者評価でも「丁寧な説明」「日頃の情報共有」「面談や子育ての助言」「事故時の連絡」「安全確保」などに「はい」が多く、信頼感が高い。 ・送迎時や面談時のこまめな声かけを通して、保護者の悩みに対して適切な助言や情報提供を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規利用時や年度更新時に、説明内容を小冊子やチェックリスト等に整理し、誰が説明しても同じ質で伝わる仕組みを整える。
3	清潔で安心して過ごせる環境と、個別ニーズに応じたスペースの確保	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価・保護者評価ともに「生活空間の清潔さ・居心地」「活動スペースの確保」に「はい」が多く、環境面の評価が高い。 ・清掃・消毒を丁寧かつ高頻度で実施し、感染症予防や衛生管理を徹底している。 ・限られたスペースの中でもパーテーションを用いて、個別・小集団の活動スペースを工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パーテーションや家具配置の見直しにより、児童の状態に応じた「静かなコーナー」「集中コーナー」など、現在取り組んでいる活動を進める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流や、地域に開かれた事業運営がまだ十分とは言えない	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価で「放課後児童クラブ・児童館との交流」「自立支援協議会への参加」「地域住民を招いた行事」などが他項目に比べて得点が低く、「いいえ」も見られる。 ・保護者評価でも、地域の子どもとの活動機会や地域の他機関との交流に関する項目で「はい」が少なく、「どちらともいえない」「わからない」が多い。 ・人員や時間的な制約から、外部との合同企画や地域行事への参加を検討していく中、具体的な実行にまで至っていない面がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援協議会や地域の関係機関の会議に、可能な限り担当者が参加し、情報交換や連携の機会を増やす。 ・地域とつながることで、こどもの将来の生活の場（学校・職場・地域活動）へのスムーズな移行につながることを職員間で共通認識とし、中長期的な連携計画を立てる。
2	保護者同士の交流の場（保護者会・父母の会等）がほとんどない	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価で「父母の会の活動支援・保護者会の開催による交流機会」が3点・一部「いいえ」となっており、事業所としても実施できていない現状が確認されている。 ・保護者評価では、この項目が全体で最も「はい」が少なく、「どちらともいえない」「いいえ」が多い。 ・これまで保護者から明確な要望が少なかったこともあり、職員間で検討する機会・優先度が低くなっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは希望を取りやすいよう、アンケートや連絡ノートで「保護者同士の交流会への関心」を確認し、ニーズに合う形（茶話会・オンライン座談会など）を検討する。
3	家族支援プログラム（ペアレントトレーニング等）や情報発信の仕組みが十分ではない	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価で「家族支援プログラムの実施」「通信・HP・SNS等による情報発信」が3点で、「いいえ」も含まれている。 ・保護者評価でも家族支援プログラムや研修会の項目は「はい」が少なく、「わからない」や「どちらともいえない」が多い。 ・個別相談や送迎時の声かけは行えているが、体系的な家族支援プログラムや、全家庭に向けた定期的な情報提供の形にはなっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在行っている個別相談・助言の内容を整理し、年数回の「ミニ講座」や「ペアレントミーティング」として、希望するご家庭があるか確認をする。